



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—過度な悲観後退で大きく上昇—

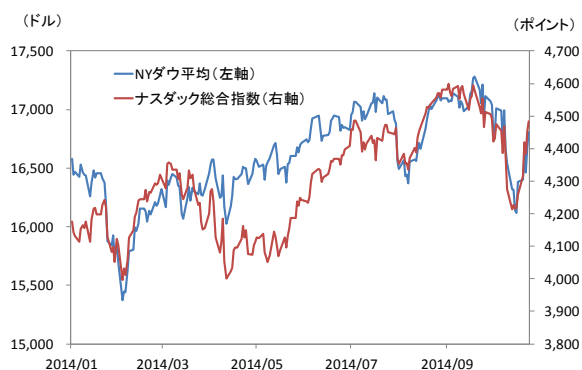
	前週終値	10月20日	10月21日	10月22日	10月23日	10月24日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	16,380.41	16,399.67	16,614.81	16,461.32	16,677.90	16,805.41	+425.00	+2.59%
騰落幅		+19.26	+215.14	-153.49	+216.58	+127.51		
S&P500	1,886.76	1,904.01	1,941.28	1,927.11	1,950.82	1,964.58	+77.82	+4.12%
騰落幅		+17.25	+37.27	-14.17	+23.71	+13.76		
ナスダック総合指数	4,258.44	4,316.07	4,419.48	4,382.85	4,452.79	4,483.71	+225.27	+5.29%
騰落幅		+57.63	+103.41	-36.63	+69.94	+30.92		

＜先週の概況＞

先週の米国市場は大きく上昇しました。エボラ出血熱や世界経済の鈍化に対する過度な懸念が後退し、企業の堅調な業績や良好な経済指標を好感しました。

欧州や中国で発表されたPMI（購買担当者景気指数）がともに改善し、成長鈍化懸念が後退しました。また、米国の住宅関連指標や消費者センチメントが良好だったことも市場の悲観ムードを後退させる結果となりました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	14.8	2.9	2.3%
S&P500	16.4	2.7	2.0%
ナスダック総合指数	22.1	3.4	1.2%

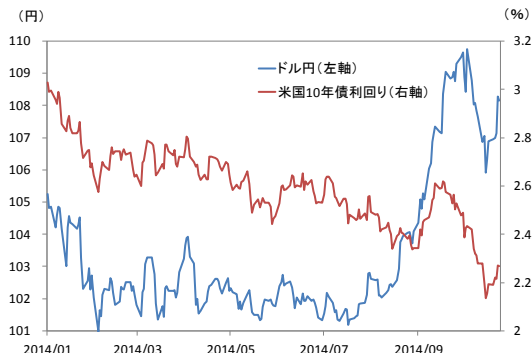
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2014年10月24日時点)

S&P500と予想PERの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

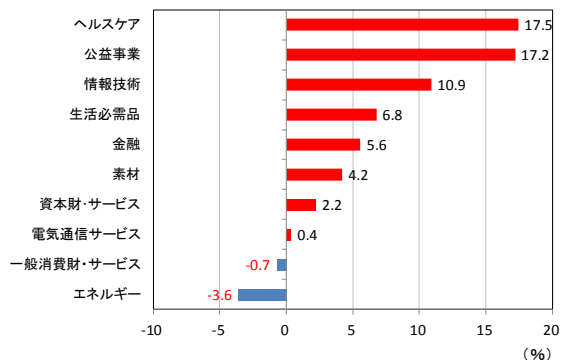
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

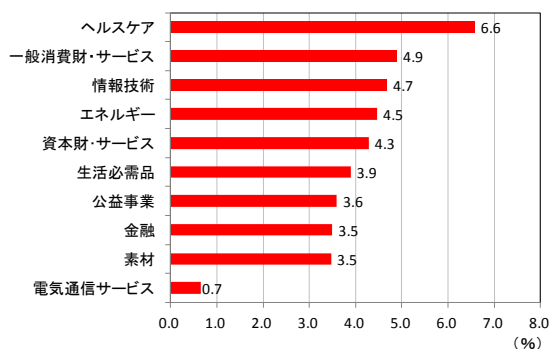
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング(10/20-10/24)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
MMM	3M	8.1
MRK	メルク	6.6
INTC	インテル	5.7
MSFT	マイクロソフト	5.7
DIS	ウォルト・ディズニー	5.7
HD	ホーム・デポ	5.3
TRV	トラベラーズ・カンパニーズ	4.8
AXP	アメリカン・エクスプレス	4.6
CAT	キャタピラー	4.6
PFE	ファイザー	4.6

(出所) マネックス証券作成

値下がり率ランキング(10/20-10/24)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
IBM	IBM	-11.0
KO	ザ コカ・コーラカンパニー	-4.3
BA	ボーイング	-0.8
T	AT&T	-0.6

(出所) マネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均採用銘柄の30銘柄中26銘柄が上昇しました。3M(MMM)は増収増益の決算を発表し大きく上昇しました。キャタピラー(CAT)は市場予想を上回る決算を発表し、通期見通しを引き上げたことから買われました。

<下落>

IBM(IBM)は想定外の減収減益の決算で、特別損失を計上することを発表したことで大きく売られました。コカ・コーラ(KO)も冴えない決算から売られました。

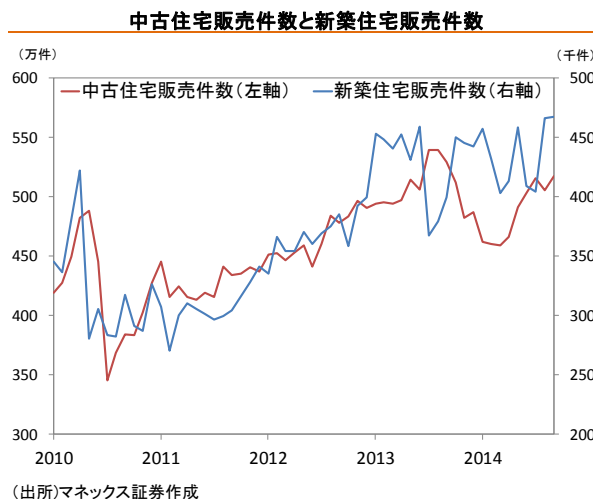
先週発表された主な経済指標

中古住宅販売件数 9月 517万件 市場予想 510万件 前月 505万件

新築住宅販売件数 9月 46.7万件 市場予想 47.0万件 前月 50.4万件

21日に発表された9月の中古住宅販売件数は年率換算517万件と市場予想を上回って前月から増加しました。24日に発表された新築住宅販売件数は市場予想をわずかに下回ったものの前月からの増加は達成しました。

両指標とも住宅市場が堅調に推移していることを裏付ける結果となりました。住宅販売は家電などの購入に結びつくことから、個人消費へのポジティブな影響が期待できます。



今後発表される主な経済指標

28日・29日 FOMC (連邦公開市場委員会)



ジャネット・イエレン
FRB 議長

28日と29日にFOMCが開催されます。量的金融緩和第3弾(QE3)の終了を決定する公算が高いと思われませんが、一部の地区連銀総裁からは足元の混乱などを考慮して、終了を延期するべきだとの声も上がっており、対応が注目されます。

また、これまでFRBが市場へのメッセージとして維持してきた低金利を維持する「相当な期間」という文言について、何らかの変更が加えられる可能性がありそうです。FOMCの発表内容がハト派・タカ派どちらに寄った印象となるかでマーケットが大きく反応する可能性があり、大きな注目を集めています。

マーケットビュー—堅調な企業業績続くも FOMC の発表には注意—

先週のマーケットビューでは、堅調な企業業績と経済動向を背景として下がった場面では買い向かえる局面ではないかと書きましたが、エボラ出血熱や世界経済の停滞に対する市場の懸念も一段落した格好となり、米国市場は大幅に反発しました。

トムソン・ロイター社の集計によれば、S&P500 採用企業の前年同期比増益率は 7.6%となる見込みで、前週時点より上方修正されました。引き続き、堅調な経済と企業業績という望ましい状況は続いており、株価の上昇が期待できる局面ではないかと考えています。ただ、エボラ出血熱の問題は予断を許さないことに加え、今週は FOMC の発表内容次第では大きな変動となる可能性があり、その点には注意が必要です。

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではないと考えています。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 165 号
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
 一般社団法人 日本投資顧問業協会